No.417 2026.6.5

京機短信

KEIKI short letter

京機会（京都大学機械系同窓会）　tel. & fax. 075-383-3713
E-Mail: jimukyoku@keikikai.jp
URL: https://keikikai.jp
編集責任者　京機短信編集委員会

目次

・2025年度（2026年4月就職）の就職先一覧……西脇眞二（pp. 2-6）
・Reconnect Fest@同窓会 2026年度中部支部総会・講演会……山内崇史（pp. 7-8）
・中国四国支部：春の行事のご報告……豊嶋範男、佐藤重喜（pp. 9-10）
・京機会の部屋……松久　寛（pp. 11-13）
・S42年卒関東同期会……長崎　啓（p. 14）
・昭和50年入学、昭和54年卒同期会の開催報告……坂口保彦（p. 15）
・10日遅れの鯉のぼり……藤川卓爾（pp. 16-19）



2026年度中部支部総会・講演会



中国四国支部：春季行事　講演会

2025年度（2026年4月就職）の就職先一覧
大学院 工学研究科 機械工学群３専攻、
工学部 物理工学科 機械システム学コース・宇宙基礎工学コース

2025年度機械系就職担当　西脇眞二（S61/1986卒）

1. はじめに

機械系就職担当は、大学院工学研究科の機械工学群3専攻（機械理工学専攻、マイクロエンジニアリング専攻、航空宇宙工学専攻）と、工学部物理工学科の2コース（機械システム学コース、宇宙基礎工学コース）に所属する学生の求人を希望する企業に対して「学校推薦」を実施しています。本稿では2025年度（2026年4月入社）の状況について報告します。

2. 学校推薦事務の経過

例年通り、企業からの面談依頼は2024年12月初旬から始まりました。30社を超える企業の方々と対面で面談させていただきましたが、一方で利便性のため多くの企業の方々とリモートでも面談を行いました。採用活動に関しては、昨年通り規制緩和が進んでおり、企業と学生との面接のほとんどが対面で行われたようです。

近年、学校推薦による採用でも、ほとんどの企業が『ジョブマッチング』および『予備面談』を行っており、実際の採用プロセスは以前よりも早く進んでいます。経団連の指針は2020年度からなくなりましたが、内閣官房からの要請に基づき、最近の数年間と同様に、広報活動を3月1日に開始し、採用選考を6月1日に開始する前提で学生との対応を行いました。学生には、例年より少し早くし、4月末の連休前に学校推薦の希望先を提出してもらい､それに基づいて6月に選考を開始するよう学校推薦書を準備しました。

以下に、1年の経過を示します。

2024年

12月10日　博士交流会・機械系進路指導ガイダンス

2025年
1月30日　就職説明会（1）
3月1日　　企業の広報活動開始
4月9日　　就職説明会（2）
4月21日　学校推薦の「推薦状発行願・誓約書」提出締切
5月13日～推薦先の決定、学校推薦書および必要書類の企業への送付
6月1日　　採用選考（面接）開始
6月以降～未内々定者への対応、不合格学生への対応

なお、今年度は、機械工学群の3専攻における大学院入試での不合格者が就職へと進路を変更するケースはありませんでした。

3. 学校推薦と自由応募

今年度も、学校推薦と自由応募の双方を取り扱う企業に対し、機械系学生の採用において学校推薦か自由応募のどちらかを選択していただきました。学校推薦では1社への専願を前提とし、内定を得た場合には他社への応募をしないルールがあります。このため、学校推薦決定後は他の応募活動を中止することが求められます。企業側にはこの趣旨を理解していただき、学校推薦と自由応募の違いを明確に認識し、学校推薦の学生に不利益が生じないよう配慮していただくようお願いしています。一部の企業では、OB・OGがリクルーターとして活動することで学校推薦希望の学生と企業採用部門の間の架け橋を担っていただいており、採用面接のアドバイスなども含めて手厚く対応していただいています。一方、書類審査の減少程度しか学生にとってメリットがないような企業もあります。学校推薦を選択する企業には、自由応募との比較で優位な条件を明確に提示していただかないと、単に学生を拘束するだけで学校推薦を希望する学生にとってあまりメリットがなく、希望者が減る可能性がある（5. に後述のように今年度も学校推薦による就職者数が減少しました）と考えています。

4. ジョブマッチング

企業側から、ジョブマッチング面談は、学生が特定の職種に適合するかを判断するものであると説明を受けています。最近では、3月頃からこの面談を実施する

企業が増え、不適合と判断されるとほとんどの場合、採用が見送られる傾向にあります。そのため、学校推薦を行う前に、ジョブマッチング面談に合格する必要があります。この結果、採用の正式な決定ではなくても、実質的に4月中旬までが選考の時期となってしまっています。さらに、インターンシップ参加者を対象とした早期採用を行う企業もあり、就職活動の早期化が進んでいます。なお、ジョブマッチング面談が不合格だと、学校推薦をしてもほぼ採用が見送られる状況です。実際の状況では、ジョブマッチング面談が事実上、選考の一部として扱われており、これが学校推薦の意義に疑問を投げかけています。ただし、ジョブマッチング面談には課題だけでなく、学生本人の希望や適性、将来を早い段階で評価し、適切な部署を選択できる機会があるとも考えられます。また、学校推薦を出してから不合格になる学生が少ないことも、学生にとっては優位な面かもしれません。

5. 就職の状況

表1は、学校推薦と自由応募による就職先の一覧を示しています。学校推薦の比率は、2007年度から2013年度までは50%～60%の範囲で推移し、その後、2014年度から2016年度にかけて77%～78%と増加。その後、2017年度から2022年度までは70%前後を維持していました。しかし、2024年度は49%、今年度は42%と、これまでの傾向から有意に減少しました。（ただし、博士学生は自由応募のみであるため、その点は考慮していません。）これは、学校推薦の形骸化と進路の多様化を反映したものと考えられます。表2は、業種別の就職者数の推移を示しています。過去数年との比較から、自動車、重工、機械の業界は引き続き高い就職者数を維持しており、また電機業界は2023年度まで減少傾向が見られましたが、本年度は増加傾向が見られます。

過去の就職状況との比較については、以下の過去の京機短信をご覧いただければ幸いです。

年度	2024	2023	2022	2021	2020	2019	2018	2017	2016	2015	2014	2013	2012	2011
No.	400	388	376	367	352	339	323	310	295	281	255	227	203	174

表1 就職先一覧と学校推薦・自由応募の区別

学校推薦

会社名	学部	修士	博士
三菱重工業㈱		6	
㈱島津製作所		4	
コマツ		3	
本田技研工業㈱	1	2	
ソニーグループ		2	
パナソニックグループ		1	
㈱クボタ		2	
㈱豊田自動織機		2	
関西電力㈱		2	
川崎重工業㈱		2	
富士フイルム㈱		2	
住友電気工業㈱		1	
ファナック㈱		1	
ヤンマーホールディングス㈱		1	
㈱ブリヂストン		1	
㈱ユーシン精機			1
㈱村田製作所		1	
三菱電機㈱		1	
日鉄ソリューションズ㈱		1	
JFEスチール㈱		1	
㈱IHI		1	
学校推薦就職者合計	1	37	1

自由応募

会社名	学部	修士	博士
トヨタ自動車㈱	1	5	
東海旅客鉄道㈱		2	
東京エレクトロン㈱		1	1
㈱ディスコ		2	
ボストン・コンサルティング・グループ	1	1	
㈱野村総合研究所		2	
関西電力㈱		2	
㈱村田製作所		2	
三菱UFJ銀行		1	
三菱重工業㈱		1	
住友ゴム工業㈱		1	
商船三井㈱		1	
信越化学工業㈱		1	
川崎重工業㈱		1	
大和アセットマネジメント㈱		1	
㈱東芝		1	
東邦ガス㈱	1		
特許庁		1	
日本アイ・ビー・エム㈱		1	
日本航空㈱		1	
任天堂㈱		1	

会社名	学部	修士	博士
富士フイルムビジネスイノベーション㈱		1	
EYｽﾄﾗﾃｼﾞｰ・ｱﾝﾄﾞ・ｺﾝｻﾙﾃｨﾝｸﾞ㈱		1	
オリンパス㈱		1	
キヤノン㈱		1	
サントリーホールディングス㈱		1	
シスメックス㈱		1	
ジャパンマリンユナイテッド㈱		1	
ヤマハ発動機㈱		1	
レーザーテック㈱		1	
ANA WINGS㈱	1		
DMG森精機		1	
ENEOS㈱		1	
JAXA		1	
㈱SCREENﾌｧｲﾝﾃｯｸｿﾘｭｰｼｮﾝｽﾞ		1	
Sky㈱		1	
TOTO㈱		1	
㈱酉島製作所		1	
㈱アルバック		1	
㈱ミツトヨ	1		
㈱日本総合研究所		1	
㈱和える	1		
自由応募就職者合計	6	47	1

	人数	学部	修士	博士
就職者合計	93	7	84	2

表2 業種別就職数の推移

業種	企業名	2025	2024	2023	2022	2021	2020	2019	2018	2017	2016	2015	2014	2013	2012	2011	2010	2009	2008	2007	計
自動車・	トヨタ自動車	6	9	6	2	2	2	5	8	9	8	7	4	7	6	7	4	4	9	7	112
輸送用機器	本田技研工業	3	3	2	3	3	5	2	1	1	3	0	5	0	1	0	1	1	1	3	38
	日産自動車	0	1	2	2	3	1	1	1	3	3	3	4	3	0	1	1	0	1	1	31
	三菱自動車	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	0									3
	マツダ	0	0	0	0	0	2	1	2	1	1	2									9
	いすゞ自動車	0	0	0	0	0	1	0	1	1	0	1									4
	ヤマハ発動機	1	0	0	0	1	1	0	1	1	0	2									7
	スズキ	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0									1
	デンソー	0	0	1	1	3	1	2	1	1	1	3	4	0	0	0	4	4	4	1	31
重工業	三菱重工	7	11	5	10	2	7	4	2	2	8	10	6	4	7	3	7	7	8	5	115
	川崎重工	3	2	1	4	5	5	3	4	7	9	7	9	9	10	4	6	3	2	3	96
	IHI	1	1	2	1	2	3	7	4	2	7	4	4	6	5	2	0	0	0	2	53
機械	クボタ	2	4	6	5	6	2	1	1	1	1	1									30
	コマツ	4	0	3	0	6	1	2	3	2	0	2									23
	DMG森精機	1	2	0	1	1	1	2	1	1	1	0									11
電機機器	パナソニック(グループ会社共)	1	6	2	4	2	1	7	4	3	3	3	5	0	3	6	3	2	9	3	67
	三菱電機	1	3	0	2	2	2	2	5	6	6	6	6	6	6	6	4	5	1	3	72
	日立製作所(グループ会社共)	0	2	1	4	2	3	3	2	2	2	2	0	1	2	3	1	4	1	1	36
	住友電気工業	1	1	0	2	1	1	2	2	1	2	3									16
	富士通	0	1	0	2	2	1	2	0	1	0	2									11
	ソニー(グループ会社共)	2	2	3	3	1	2	4	1	0	3	2									23
計測	島津製作所	4	0	2	1	3	5	5	0	1	2	2	1	2	3	2	6	4	1	2	46
医療	オリンパス	1	0	0	1	0	0	0	0	0	1	2	2	1	0	1	3	3	1	0	16
鉄鋼	日本製鉄,JFEｽﾁｰﾙ,神戸製鋼	1	0	0	2	1	2	6	2	8	2	4	7	3	6	11	8	6	10	10	89
化学・材料	富士フイルム・住友化学,東レ,旭化成	2	1	4	2	3	2	3	3	1	1	0									22
電力		4	1	2	1	1	1	2	0	2	2	2	3	4	2	4	3	6	3	3	46
JR		2	2	1	2	3	2	5	4	5	1	1	2	2	0	2	3	3	4	3	47
国家公務員	経産省,国交省,特許庁等	1	0	1	1	0	0	2	2	2	2	1	2	1	4	0	3	3	2	2	29

6. おわりに

OB・OGのリクルーターの皆様には、大学の教育研究活動に与える影響を考慮し、学生の就職活動に対してご配慮いただき、貴重なご指導・ご支援を頂戴しましたこと、心より感謝申し上げます。また、OB・OGの方々から学生の将来についての深いご指導を受けるとともに、提出書類の作成方法や面接対策など細やかなアドバイスを頂戴しましたこと、心から感謝しております。2026年度（2027年4月入社予定）の就職担当は、機械理工学専攻の西脇眞二が引き続き担当します。また、2026年度からは学校推薦の厳格化を進めていく予定です。すなわち、『ジョブマッチング』および『予備面談』を実施される企業には、自由応募での対応をお願いし、『ジョブマッチング』および『予備面談』後の学校推薦をしない予定です。また、学校推薦をご希望の企業には、大学から学校推薦をさせていただいた後に、選考を進めていただくようお願いする予定です。

今後とも、京都大学機械系の発展に向け、何卒よろしくお願い申し上げます。

Reconnect Fest@同窓会 2026年度中部支部総会・講演会

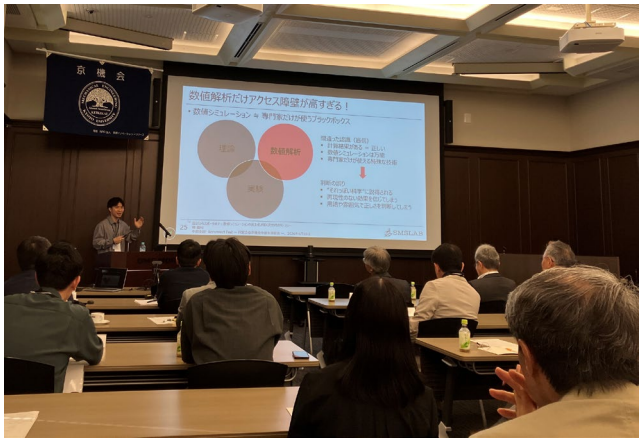
中部支部総会幹事　山内崇史（H10/1998年卒）

【総会】

4月18日（土）、DMG森精機セールスアンドサービス名古屋ビルにて、2026年度中部支部総会・特別講演会を開催しました。中部支部では昨年から「Reconnect Fest@同窓会」と銘打ち、“スーツ禁止”のアットホームな雰囲気で会を続けています。今年は70名が現地参加し、若手会員の姿も多く見られました。会場のあちこちで自然に会話が始まり、世代を超えた交流が生まれていました。京機会の仲田会長からは「若手が元気で非常に活気のある中部支部」とのお言葉をいただきました。総会では、2025年度活動報告、2026年度新体制紹介、活動計画を共有しました。「Re-Connect Boost! 中部支部」のスローガンのもと、これからも“参加したくなる同窓会”を目指して活動してまいります。

【特別講演会】

今年は、「数値シミュレーション」と「自動運転」という、機械系の同窓会らしい2つのテーマで講演会を開催しました。京都大学大学院工学研究科の韓霽珂先生からは、「設計からスポーツまで: 数値シミュレーションの民主化が拓く次世代のリテラシー」と題してご講演いただきました。CAE・数値シミュレーション技術の広がりに加え、韓先生ご自身の研究者としてのキャリアの歩みについてもお話しいただき、技術の話題にとどまらない、大変貴重な講演となりました。





続いて、株式会社豊田自動織機の佐藤誠氏より、「羽田を走る自動運転トーイング: 内閣総理大臣賞の舞台裏とシステム全貌」と題してご講演いただきました。羽

田空港という大きな現場で進められている自動運転技術について、システム構成から実運用に至るまで､開発の最前線のお話を惜しみなくご紹介いただきました。会場からも多数の質問が寄せられ、質疑応答は予定時間いっぱいまで活発な議論が繰り広げられました。実際の現場で技術を形にしていく難しさと面白さがよく伝わる講演となりました。

【懇親会・新人歓迎会】

懇親会では、2名の新入会員を迎え、クイズゲームや大学の近況報告も交えながら、和やかに交流を深めました。会場をご提供いただいたDMG森精機様には当日の運営面でもお世話になり、シェフによるローストビーフカットや握りずしの実演など、心のこもったおもてなしをいただきました。会場のあちこちで会話の輪が広がり、技術談義から学生時代の思い出話まで、世代を超えて話が尽きない様子でした。終盤には、恒例の琵琶湖周航の歌を参加者全員で合唱しました。会場いっぱいに広がった輪が印象的で、今年も中部支部らしい賑やかな締めくくりとなりました。最後に、本会の準備・運営に尽力いただいた関係者の皆さま、そしてご参加いただいた皆さまに心より感謝申し上げます。





中国四国支部：春の行事のご報告

中国四国支部長　　豊嶋範男（S57/1982卒）
中国四国事務局長　佐藤重喜　（H5/1993卒）

2026年5月9日(土)に春季行事を香川県（多度津町・丸亀市）で18名（対面）と2名（オンライン）の参加で開催しました。

企業見学会は多度津町のＪＲ四国多度津工場を見学しました。ＪＲ唯一のＦＲＰ台車とその検査装置をはじめオーバーホールで解体された鉄道車両の各装置にプロ、ガチファンをはじめ参加者たちは興味津々でした。

場所を丸亀市に移し、総会・講演会・懇親会を開催しました。会場は瀬戸内海ビューの場所にあり、合間には瀬戸大橋を眺めてリラックスしました。（瀬戸大橋を渡る列車を撮影しようとハイテンションの方もいらっしゃいました）

講演会は、同志社大学の田中先生にお越しいただき「ＦＲＰに関する最近の動向」についてご講演いただきました。

四国メンバーの支部長・事務局長の体制が本総会で終わり、各行事の四国開催は一段落？ですが、中国四国支部を引き続きよろしくお願いいたします。



写真１：企業見学会（多度津工場内展示の四国最後のSL前）



写真２：講演会（同志社大学田中先生）



写真３：懇親会（締めは琵琶湖周航の歌）

京機会の部屋

松久　寛（S45/1970卒）

1997年に機械教室は百周年を迎えた。それまで、京機会は担当の教員が3年に一度の名簿の発行と年に2回の大会（一回は京大で、もう一回は企業で）を開催していた。会費は3回生になった時に3000円の永年会費を払うだけであった。しかし、卒業生が増えてくると名簿の管理だけでも大変であり、同窓会の案内の郵送費もままならなかった。名簿販売と名簿に載せる企業の宣伝費でかろうじて存続していた。そこで、百周年を機にきっちりとした組織を作ろうということになり、規約を作り、会長など役員体制をつくり、事務員（段智子さん）を置いた。会費も毎年3000円に変更した。しかし、部屋はなく、印刷室の片隅をパーティションで区切り、机を一つ置いただけであった。そこでは、来客の座る場所もなかった。

1999年に精密工学科が8階建ての新校舎に移転したのを機にその8階の2スパンの部屋を京機会に提供した。比叡山や北山が見渡せる部屋である。また、卒業生が訪ねてきて団欒できるようにと10人が座れる応接セットを事務室から調達し、本棚などを小寺秀俊先生が提供してくれた。なお、この応接セットは現在も使用している。床はウールの毛足の長い深紅の絨毯を敷いた。この絨毯については、事務は難色を示したが､総長室も同じものを敷いているではないかと押し切った。2013年の桂への移転まで、多くの卒業生が訪ねてきた。いつも、段さんがお茶やコーヒーを出し、温かくもてなしてくれた。



2000年　50年会（1950年卒同窓会）ご訪問

当初、部屋の看板が問題になった。「京機会」としたかったのだが「工学系同窓会連絡会分室」とした。これは、同窓会が大学の組織かそれとも学外の任意団体かの問題であった。当時は灰色であった。ほとんどの同窓会は担当教員が自分の部屋で事務作業をしていた。しかし、大きな組織である土木の同窓会（京土会；きょうどかい）は学外に事務所を構えていた。また、農学部同窓会（四明會）は学内に事務所を構えていたが、その部屋代を大学に収めていた。当時は京大全体の同窓会はなく、大学当局もはっきりしなかった。そこで、工学部では、同窓会としての看板は出さずにあいまいな形で使用することになった（注）。そのために「社会連携室」と名乗ることになった。のちに、「京都大学工学部同窓会連絡会分室」や「京都大学工学系同窓会連絡会分室」という名前も使われた。そのうちに、京大全体の同窓会ができたが、それは学内の部屋を使っていた。そこで、同窓会が大学の施設を使用しても良いと解釈して、「京機会」を表に出してもいいと私は思ったが、余分なトラブルを生まないためにか、前例通りのうやむやなままになっている。

桂キャンパスへの移転に際しては、吉田キャンパス同様の良い部屋を与えられた。足の便が悪くなったが、多くの方が、利用することを願っている。

注： 2006年に西本清一氏が工学研究科長・工学部長に就任した。彼は、私に工学部同窓会を作り、工学部のクレジットカードを作るように依頼した。当時、農学部と法学部は独自のクレジットカードを持っており、その使用額の一部が同窓会に還元されていた。工学部の卒業生の人数は多いので1%としてもかなりの金額になる。そこで、各学科の同窓会を集め、ひとまず、連絡会を作った。部屋も地下に生協食堂のある8号館に設置した。会長に当時京機会会長の小澤三敏さん、事務局長に私が就任した。あるクレジット会社と交渉し、ほぼ決まり、カードのデザインや各学科同窓会での取り分をどうするかなどの詰めの段階まで進んでいた。しかし、工学部の事務局が躊躇し、ゆっくり検討するようにとストップをかけた。このような話は一気に進めないと尻すぼみになる。そのうちに、カード会社から辞退の申し出があった。これで、工学部同窓会を作る当初の意味がなくなったが、名称は工学部同窓会、工学系同窓会連絡会など紆余曲折したが、結局、年に一回の情報交換会になっている。会長と事務局長は各学科の同窓会が回り持ちで出している。

この工学部同窓会を使って、大学当局と部屋の問題を相談した。大学側は法律関係者などの意見を聞いたが、はっきりとした回答は得られなかった。そこで、当時副学長であった土木の大西有三氏と相談し、名称は「社会連携室」として使用することにした。

京機会単独ででも、クレジットカードを作ってほしいものである。これができれば、財政はずいぶんと楽になる。

❦❦❦

S42年卒関東同期会

長崎　啓（S42/1967卒）

2026年4月14日、春ながら夏に近い暑い日、品川のレストラン米門品川に11名が集まりました。毎年、1～2回、20年近く続いている同期会、通称「金時会」ですが、今回は1年4カ月ぶりで、かつ初めての真昼の宴でした。常連15名のうち2名が最近鬼籍入りしましたが、顔を合わせた生き残りの連中は、いずれも頗る元気で90歳まで頑張ろうと、祝杯で誓い合いました。ランチ御膳を賞味しながら飲み放題で論壇風発、2時間半はあっという間でした。

春ごとに花のさかりはありなめどあひ見む事は命なりけり



岡 毅遥、楢村 勝、前野幹彦、渡辺光寛、平尾　隆、若園 修、長崎 啓、
西村喜之、元木敏雄、松浦重治、中野善文

昭和50年入学、昭和54年卒同期会の開催報告

昭和54年卒学年幹事　坂口保彦（S54/1979卒）

5月16日(土)に日鉄代々木倶楽部で同期会を開催しました。遠く福岡、岡山、大阪からの参加者もあり、参加者は25名で、懐石料理をいただきながらワイワイガヤガヤと昔にもどり、大いに盛り上がりました。

最後に琵琶湖周航の歌を唄い､応援団員であった永並氏のエールでしめました。この同期会の開催にあたっては､関東在住の同期6名で組織された実行委員会のご尽力により成功裏に開催されました。この場を借りてお礼を申し上げます。

同期全員がまもなく70歳以上となり、卒業後50年を迎えます。これからも同期会を各地で開催していきたいと思います。



10日遅れの鯉のぼり

藤川卓爾（S42/1967卒）

「6日の菖蒲、10日の菊」という言葉がある。5月5日の「端午の節句」、9月9日の「重陽の節句」に間に合わなければ、折角の花も値打ちが落ちるという意味である。

終活を兼ねてクローゼットを片付けていたら、昔の鯉のぼりが出て来た。息子が生まれたときに買い求めたものであるが､息子のところは孫娘2人なので我が家に残っていた｡それに加えて､私が子供の頃に自分で作った鯉のぼりも出て来た。両親は質素で､「欲しいものは自分で作る」というのが我が家の方針であった。この鯉のぼりは私の「ものづくり」の一つの原点である。



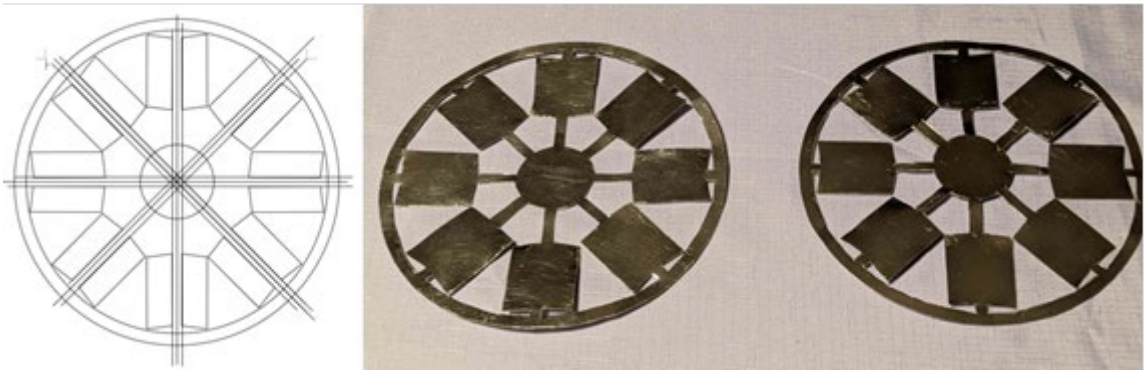
子どもの頃に作った鯉のぼり

これらを断捨離で捨ててしまうのは勿体ないので､我が家で上げることにした。昔は60歳で「還暦」で子どもに戻ると言っていたが、少子高齢化で「還暦」も20年程延びているのではないか。傘寿を過ぎて、再び子どもに戻った気持でこれらの鯉のぼりを上げてみようと思った。

思い立ったのが4月の下旬で､それから竿を準備しなければならない｡息子の時には家の横の竹藪から竹を切って来て竿代わりにしていた。先端部分は笹の葉を残していたので何とか格好がついた。今回は塩ビのパイプを使おうと思ったが、ホルムズ海峡の封鎖の影響で塩ビパイプはホームセンターから姿を消していた。やむを得ず少し高いが松の木の丸棒を使うことにした。竿の先端に何もないのは寂しいので､「矢車」を付けようと思った。これも購入すると高いので子供の頃を

思い出して自分で作ることにした。ところが歳をとって何をするのにも若い頃に比べて時間が倍以上かかることに愕然とした。

最初に「矢車」はアルミニウムの薄板から作ろうと思った。先ず下図を作成した。次にこれを紙にプリントしてアルミニウム薄板に貼り、カッターで切り出した。



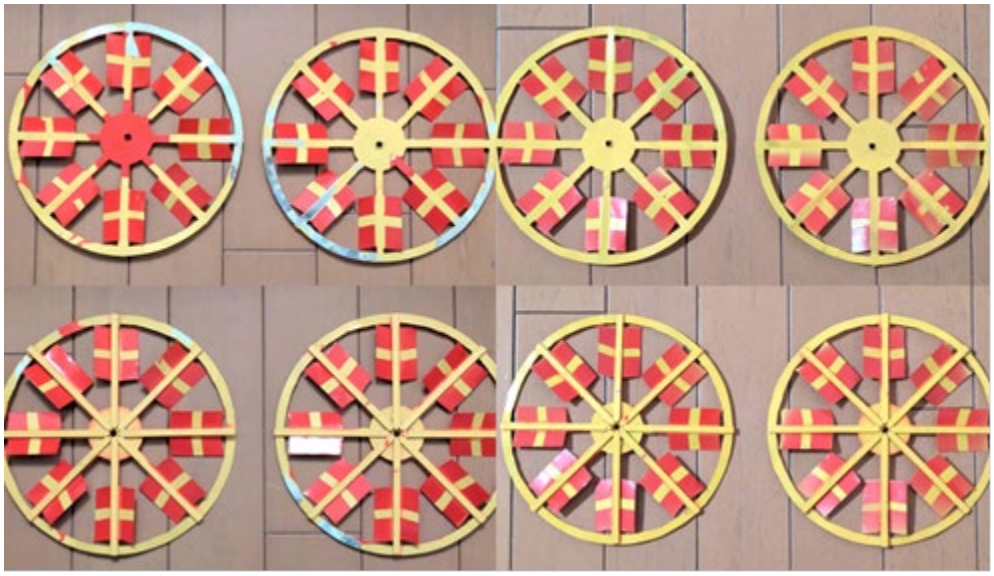
「矢車」の下図とアルミニウム薄板からの切り出し

次に補強材を貼り付けて、「矢車」の羽根のピッチ付けをした後にペイントを吹き付けて色付けをした。単色塗装は全く問題なかった。



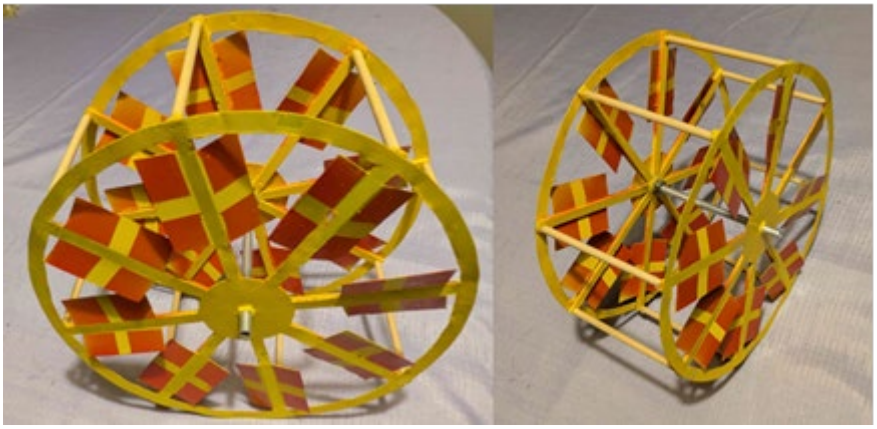
「矢車」の羽根のピッチ付けと単色塗装

二色塗装は苦戦した。マスキングを忘れたり、マスキングテープとペイントの接着力がペイントとアルミニウム地金の接着力より大きく、テープをはがすとペイントが剥がれるところがあった。



「矢車」の二色塗装

部分的に塗り直して2枚の「矢車」を組み立てたが、今度はひずみが出た。写真では分からないが、回転軸と「矢車」の面が直角にならずに斜めになってしまった。精度不足であるがこれはどうしようもないのでそのままとした。



「矢車」完成

「矢車」が完成して、鯉のぼりを上げる前に、昔作った鯉のぼりの「口」の部分を修理した。竹ひごが劣化していたので、プラスチック製のバインダーと取り換えた。完成は5月5日の「端午の節句」には間に合わず、10日遅れた。

市販の「矢車」は回転軸が竿に開けられた中空の軸受に支えられる構造であるが、自作の「矢車」は回転軸が中空で支持軸の周りを回る構造である。この構造により「矢車」の外周部に2枚の「矢車」をつなぐ部材を入れて剛性を高めることが出来た。



鯉の「口」の修理

市販の「矢車」



自作の「矢車」



無風の鯉のぼり



風に泳ぐ鯉のぼり